

読谷村立喜名小学校 (校長 森根 功)

○ 6年生 総合的な学習の時間を活用した平和学習

恩師から教え子へ “いのちのバトン” を受け渡したい。

(平成27年9月4日：現地取材ほか)

【実践事例紹介】 古謝 敦子 教諭 (6学年担任)

(聞き手：沖縄県平和祈念資料館 古謝将史)

1. 喜名小学校 (6年生) における平和学習について

(聞き手) フィールドワークや創作平和劇など実践なさっておいでですが、古謝先生の平和学習に対する考えをお聞かせください。

(古 謝) これまでも平和学習に取り組んでいました。講師による講話や戦争関連の写真パネル展示については、率直なところ、マンネリ化していないか疑問がありました。生徒の感想を見ても当たり障りのない内容が多く、「本当に、伝わっているのか？」と考えさせられました。やはり、フィールドワークや創作劇など、様々な要素を取り入れた学習を行う必要性を感じました。フィールドワークや創作劇などに取り組むことによって、事前学習した内容の再確認ができると考えています。

今年は、戦後70年ということもあり、平和学習のまとめとして創作平和劇に取り組む予定です。場面設定にあわせて、子ども達自身が台詞を考えていく過程やその台詞そのものから、学習内容の定着について評価したいと考えています。喜名小学校は、沖縄戦当時、米軍が本島に上陸する際に第一歩を記した読谷村に所在します。この地だからこそできる平和学習を追求したいという思いもあります。

(古謝敦子 教諭)



読谷村立喜名小学校6学年 『平和学習のしおり』 ～ はじめに より ～ 平成27年度版

「今年も6月がやってきます。6月は沖縄県にとって、平和について考える非常に重要な月です。また、2015年の今年には先の大戦が終わってから70年という節目の年でもあります。

でも、皆さんの中には「遠い昔のこと」や「かなしい気持ちになりたくない」などと、平和学習を軽く考えたり、避けてきたりした人も多いでしょう？

沖縄県民としてこの機会に先生たちと一緒にきちんと平和の大切さや戦争の悲惨さについて、学び・考えたことを発信してみましよう。」

(聞き手) 事前学習を行う際にどのようなことに気をつけましたか？



(新聞から実相を読み取る)

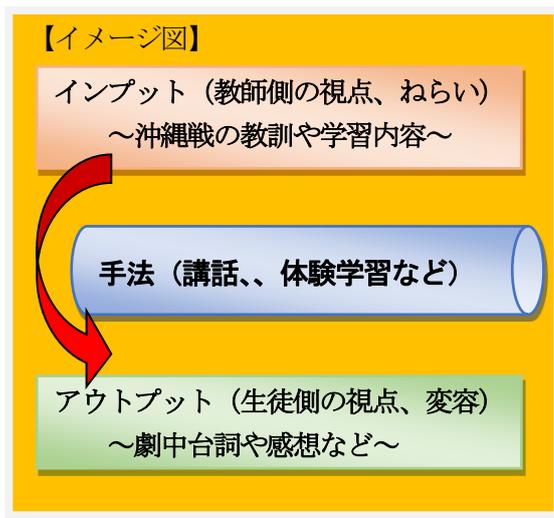
(古 謝) 子ども達は《 平和＝基地問題 》とイメージしている事が多いです。そのため、沖縄戦で実際にどのようなことがあったのかをしっかりと学ぶことが大切になると思います。県内新聞社から、平和学習に役立つ資料も配付されていたのでそれも活用しました。昨今の風潮もあるので、偏りが無いように配慮しながら県内新聞社二社の内容を見比べながら学習しました。その過程を通して、平和の大切さを伝えるようにしています。沖縄戦については「捨て石」とよく表現されます。学習を深める中で、子ども達の認識の中に、「捨て石」と表現されるに至った事柄のイメージができてきたと感じます。

(聞き手) 平和劇を創作するそうですが、どのように取り組む予定ですか。

(古 謝) 沖縄戦の場面を単に再現する劇ではありません。現代に生きる子ども達の視点で、劇を構成しています。仕掛けとしては、例えば、現代に生きる子ども達が、夢の中で出会った人々との関わりを通して、沖縄戦の実相に触れるという設定を考えています。今後、6年生の担任同士で、子ども達のレディネスを考慮しながら、シナリオを作っていきます。劇の構成として大切なことですが、最後の場面は、子ども達自身から未来にむかって何ができるかを表現する場面にしたいと考えています。

先程もお話ししましたが平和学習で大切なことは、マンネリ化しない事です。伝わらないと、取り組みそのものの意味がありません。インプットの内容として、教師の側が想定する「沖縄戦から何を学ぶのか」という内容

があり、インプットするための手立てとして、様々な学習形態の仕掛けがあります。劇中の子ども達の台詞は、インプットに対する回答、アウトプットということになります。学習内容を子ども達自身がどのように認識したのかを教師側が知るためにも、子ども達自身の言葉で表現する台詞が重要になります。



(聞き手) 平和学習に学年で取り組む際に、どのような点に気をつけていますか。

(古 謝) 平和学習については、経験の差や認識の差が見られます。事前に、互いの共通理解を図るための話し合いを持つことが大切です。子ども達に配布する平和学習用のしおりも、そのねらいや各時間の学習内容を踏まえた内容とすることで、教師間の指導のばらつきを抑え進捗を揃えることができます。創作劇についても同様に、シナリオ作成の段階



から担任間で意見交換を図っています。登場人物の相関関係や幕の構成など、子ども達のレディネスを勘案しながら内容を固めていきます。

(聞き手) 喜名小学校での取り組みに際して、他の行事等とのバランスや保護者側・地域の協力の様子はどうですか？

(古 謝) 学力向上の取り組みとして行事の精選や、具体的に行事の取り組み期間を2週間とする方針が出されています。私は、行事大好き人間なので、行事を通して子ども達を育てたいのですが(笑い)。もちろん学力向上も大切ですので、行事の精選やバランスを図るのは理解できます。なおさら計画的に行事に取り組むことが大切ですし、逆に、計画的に取り組むことでやりたい行事も並行してできていると思っています。創作劇でも、レディネスに応じて内容を深めることができます。学力向上と行事内容の深化は、互いに結びついているのではないのでしょうか。

保護者の協力についても、大変助けられています。先日、本土新聞社の取材で、急遽、チビチリガマでのフィールドワークを行うことになりました。事前計画ではなかったのですが、バス代も徴収されておりませんでした。そこで、学校から現地までの保護者による送迎を依頼しました。当日、多くの保護者が送迎に協力してくれました。地域性なのかも知れませんが、平和学習への保護者の期待も感じられました。教育委員会でも、平和をテーマとしたイベントを数多く行っている印象があります。米軍上陸の地として平和への取り組みが比較的盛んな印象を持っています。



(聞き手) 平和学習を学んでいった子ども達に、将来、どのような大人になってほしいですか？

(古 謝) 子ども達には、「正しい判断力」を身につけてほしいと思っています。なりたい自分を想像して、そのために今できることを判断して行動できるようになってほしいです。「正しい判断力」とは、みんなのためになることは何か、良いことと悪いことの判断だと思います。正しいと思ったことは、行動にうつすことができる。そんな大人になってほしいです。

2. 具体的な指導計画(「喜名小学校6学年 平和学習のしおり」より抜粋)

【平和学習の見通しをもとう】

(1) イメージマップ作り(1時間)

めあて … 平和学習に出てくる地名と場所を知ろう。

進め方 ① 白紙に沖縄本島の地図をかく。

② 先生が示した地名が①で書いた地図のど
のあたりか印をつける。

③ 本物の地図で、実際の場所を確かめる。



(事前学習の様子)

(2) 沖縄県平和祈念資料館について(各1時間)

めあて…校外学習で訪れる資料館の各展示室について学ぼう

- 進め方
- ① 第一展示室「沖縄戦への道」
 - ② 第二展示室「鉄の暴風」
 - ③ 第三展示室「地獄の戦場」
→シミュレーション「あなたの運命は？」
 - ④ 第四展示室「証言」
 - ⑤ 第五展示室「太平洋の要石」

県平和祈念資料館の二階常設展示室について、事前学習の時間を十分に確保している。各室1時間を割り当て、各学級にて概要や用語についての学習を行っているのが特徴的。事前学習の定着の程度が、後半の平和劇での台詞に反映されるとのこと。

(3) アニメ『ひめゆり』を鑑賞し、事前学習のまとめをする(2時間)

めあて … 学徒隊について知り、これまでの学習も思い出し、考えた事をまとめよう。

- 進め方
- ① アニメ『ひめゆり』を鑑賞する。(約30分)
 - ② アニメ『ひめゆり』から何を学んだか、ワークシートをもとにランキングをする。
 - ③ これまでの事前学習をふりかえり、ワークシートをもとに感想を交流する。

(4) 課題を持つ

めあて … 校外学習でさらに調べたい事や質問したいことをまとめよう。

(5) 校外平和学習に行く(6時間)

めあて … 事前学習をもとに体験活動と各自の疑問を解決しよう。

- 進め方
- ① バスの中で平和に関するクイズに答える。
 - ② 沖縄県平和祈念資料館の講師の先生から平和講話を聞く。
 - ③ 展示室1～5までを見学する



(平和講話の様子)



(第1室 見学の様子)



(第2室 見学の様子)



(第3室 ガマ内にて)



(第4室 証言集を見る)



(平和の礎にて)

- ④ 昼食後平和の礎の前で「さとうきび畑」を心を込めて合唱する。
- ⑤ 平和ガイドの方と一緒に陸軍壕病院跡に入ってみる。
- ⑥ バスの中で校外学習の感想を発表する。



(「さとうきび畑」合唱)



(平和ガイドからの説明)



(南風原陸軍病院壕跡)

(6) 平和新聞をまとめる(2時間)

めあて … これまでの平和学習で学んだことを分かりやすくまとめよう。

(新聞作成の様子)



(7) 平和劇を創る(調整中)

めあて … 学習の成果を劇に表し学芸会で平和の尊さを発信しよう。

3. 平和学習に取り組むきっかけ。そのウムイ(想い)について。

(聞き手) 平和学習に取り組むきっかけとなったことは何ですか？

(古 謝) 私が小学校6年生の頃、担任が宮城已知子先生といって、元女子学徒隊(瑞泉学徒隊)の生き残りの方でした。先生から社会科の授業を習っていましたが、戦争と平和について教えて頂いた記憶が強く残っています。ある時、宮城先生が、ご自分が沖縄戦当時に実際に隠れていたという壕に私達を案内してくれました。そこで、宮城先生が当時の辛い体験を涙ながらに話をしてくださったことが強く印象に残っています。普通の学校では非常に厳しい指導をなさっている担任の先生が、涙を流しながら体験談を語っている様子は、子どもなりに本当にショックでした。その後、教員として教壇に立つことになって、あらためて宮城先生の当時の教えを思い出しました。あの時、宮城先生から戦争の悲惨さや平和の尊さを伝える「いのちのバトン」を渡されたのではないかと。だとすれば、今、教壇に立った私は、その「いのちのバトン」を、次の子ども達に渡す責任を託されたのではないかと考えるようになりました。それからは、自分なりにフィールドワークや平和劇などの平和学習に取り組んできました。

(聞き手) 「いのちのバトン」という言葉からは、子ども達への受け渡しもそうですが、古謝先生の学年での取り組みを振り返ると、後輩教師に対しても同様に平和学習の手法「いのちのバトン」を受け渡したいという意図があるように感じますが、どうでしょうか。

(古 謝) 宮城先生の教えから学んだことは、私達、教師の言葉は「重い」ということです。平和を考えるということは、すぐに答えが出るものではないと。教えたことの答えは、大人になってから見つかるものではないでしょうか。だから、今、私達教師ができることは、同じ話でもいいから、繰り返し語

る事だと思えます。平和学習の手法は、人によって違うと思
います。後輩教師に伝えたいことは、手法は違っていいの
で、繰り返し語る事の大切さに気づいてほしいと思えます。
(以上)

県立総合教育センター夏期短期講座（小学校総合的な
学習の時間）での事例報告の様子。“いのちのバトン”
を先生方に広げていきたいとのウムイを伝えたい。



教師の言葉の重さを自覚し、語り続けること。

～ 「沖縄戦平和学習」今後のシェアリングのために ～

『恩師から教え子へ。教師だからできる戦争記憶の継承の姿。』

今回のシェアリングプロジェクトでは、読谷村立喜名小学校6学年の実践を取材しま
した。古謝先生を中心としながら、学級担任の先生方で共通理解を図りながら平和学習
を創り上げていく様子が見られました。

沖縄戦における学徒隊生き残りである恩師の想いを受け継いでいるという自覚と責
任感が、古謝先生のお話しから強く伝わってきました。平和学習の在り方について、「本
当に伝わっているのか？」と自問自答しながら、あらたな手法を開発して実践している
古謝先生の情熱には、頭が下がる思いがします。

沖縄戦を体験した方々が年々減少する中、沖縄戦の実相を次の世代に正しく伝える場
としての学校教育の役割が一層重要視されています。

戦争体験者でもある教師(恩師)から沖縄戦や戦争と平和について学んだ教え子達が、
今、教壇に立って恩師の教えを振り返りながら、次の教え子達に沖縄戦の実相を伝える
取り組みをしている。古謝先生と同じような立場で、戦争記憶の継承への想いを抱く先
生方も多くいらっしゃいます。戦争体験者による語りが困難となる時期を迎えた時、恩
師の想い(沖縄戦の記憶、平和学習の手法)を受け継いだ先生方による語り部が果たす
役割が大きくなるのではないかと、今回の取材で感じられました。

今回の取材には、読谷村立喜名小学校の森根功校長先生、古謝敦子先生、6年生学級担任
の先生方にご協力を頂きました。感謝申し上げます。

(沖縄県平和祈念資料館 古謝将史)